



五感動物園

先日、動物園で（おそらく）初めての音楽会を開きました。日立市のシビックセンターで活動しているひたちジュニア弦楽合奏団によるクラシックな秋の調べです。飼育員とシビックセンターの職員が話し合った末に実現したのですが、なかなかありそうでなかった企画ではあります。小学生から高校生の皆さんによるバイオリンやチェロなどの弦楽器による優雅な旋律。なかなか本格的で、久しぶりにゆったりと午後のひと時を過ごさせてもらいました。動物園は動物の好きな方が訪れるのは当然ですが、これからは色んな分野の方に来てほしいと思います。そのキーワードが五感に訴える動物園です。



《芸術の秋》

音楽会のあいさつでもちょっと話したのですが、動物園は色々な音であふれています。オープニングは入ってすぐにアジアゾウが大きな声でトランペットのように吠えたかと思うと、パシンパシンとパーカッションさながらに鼻を床にたたきつけてお出迎え。ちょっと進むとケケケケとワライカワセミの哄笑。キツネザルたちはガヤガヤとけたたましく井戸端会議。カバが息継ぎのときバフッバフッとアクセントをつければクロサイが体に似合わずミーミーと小さくアピール。一転ツルの一声からサル山の合唱でクライマックスを迎えライオンの雄叫びでエンディング。まさに一編のオペラのごときおもむきです。

目で見て楽しむ動物園ですが、耳を使えば、より動物を楽しむことができます。動物たちは実に表情豊かに音を（声を）出します。犬はワンワン、猫はニャーニャーと擬音化されますが、多くの動物たちは言葉にできない鳴き方で感情を表現しています。よく、カピバラって鳴くの？とか聞かれますが、カピバラも小さな声で鳴きます。自分の子やお母さんを探すときなどに聞かれます。運よく聞けたらラッキーです。コツメカワウソなども、結構けたたましくミャーミャー鳴いています。飼育員を見つけるとマックス状態で鳴くので、どう考えても餌をねだっていると思えません。ということは動物たちにも「お腹減ったからごはんちょうだい」という意思があり、それを外部に伝える能力があるからにほかなりません。もちろん威嚇したり敵から逃げる時も声を発します。何らかの感情の発露、ぜひ自分の耳で確かめて下さい。



《おかあちゃん、母を求めて…カピバラ赤ちゃん》

この他にも、五感のひとつの嗅覚。動物園が水族館などと違って敬遠される大きな原因の一つがこの臭いかもしれません。いい臭いならともかく、そのほとんどは動物の排せつ物や、体から発せられる（前にいたゴリラは特有の酸っぱい臭いを出してました）ものです。もちろん飼育員は毎日朝夕、寝室やグランドをきれいに掃除します。しかし昼間の展示中はさすがにお掃除が間に合いません。その間も出るものは出ます。あまりにも大量に出れば、例えば直接飼育のゾウなどは折を見て糞を片付けますが、間接飼育の猛獣類などは入ることができません。しかしこの臭いこそが動物園の醍醐味だと思いませんか。テレビや映画などいくら高詳細の迫力ある映像やダイナミックサウンドシステムでも、臭いまで出すことはできません。つまり生を体験できるのはこの嗅覚があるからなのです。動物たちの生の臭いをガンガン嗅いでほしいと思います。



《ダイナミックなクロサイさん、ちょっと失礼》

そして触れる感覚、これは動物のエサやりやふれあい動物などで直接感じ取って下さい。動物のぬくもりは生きてる証です。最後に味覚…、うーんこれは「動物たちを舐めてみて、」とは言えないので2階にあるエレファントカフェでかみねバーガーを思い切りかぶりつき、常陸牛のおいしさに舌鼓を打って下さい。

というわけで音楽会をきっかけに耳を研ぎ澄ましていただいたら、これからも五感をフルに動員し、動物園の動物たちを心ゆくまで堪能してほしいと思います。

「どうぶつのくに」連載中の「あつかみね動物園だ！」VOL.6
よかったらこちらからどうぞ [「どうぶつのくに」](#)（新しいウィンドウが開きます）

2013年10月12日